



うるま市の文化財 シリーズ⑥

アマミチューの墓



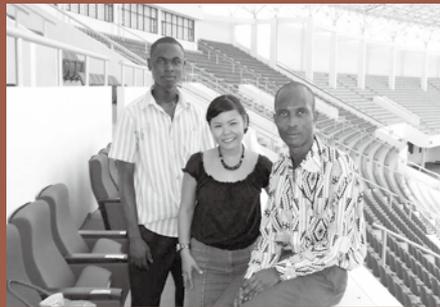
浜比嘉島内のアマジンと呼ばれる岩屋の小島があり、そこには洞穴を囲い込んだ墓があります。地元では沖縄を誕生させた、琉球開闢伝説の神アマミチュー、シルミチューの男女二神及び他の神が祀られていると伝えられています。毎年、年頭拝みでは比嘉のノロ(祝女)が中心となって島の人々が多数参加して豊穰・無病息災・子孫繁栄を祈願しています。

シルミチュー



浜比嘉島の比嘉の南南東の森の中にあり、琉球開闢伝説の神シルミチュー・アマミチューが住んでいた場所と伝えられています。アマミチュー墓と同様に、年頭拝みが行われます。洞窟内には鍾乳石の陰石があり、子宝の授かる霊石として崇拝され、信仰圏の広い貴重な拝所です。

文化課 ☎978-7245



うるま市出身の青年海外協力隊
平成18年度3次隊・上江洲梨奈
活動国 ガーナ

青年海外協力隊とは…
海外で開発途上国の人々とともに地域の社会や経済の発展に貢献する活動を行っています。

私は平成19年3月から今年の3月まで、西アフリカのガーナにパソコンのインストラクターとして派遣されています。派遣前はガーナに関する情報がほとんどなく、アフリカでの生活は想像もつかないものでした。でも、実際にガーナに来てみると意外と発展していてビックリ！ といっても、地方の農村部にいくと、電気もなく、水はダムや井戸からという所がたくさんあるのも事実です。

私は、理工系高等学校でパソコンを教えていました。また、地方のパソコンがない学校に出張講義に行くこともありました。ガーナでは車や電化製品など日本製品はたくさん見るけれど、日本や日本人に関する情報はほとんどありません。そのためか、ガーナ人は日本に興味津々！

生活習慣や文化の違いもあり、時には「イラッ」とすることも。でも、似ているところもたくさんありました。頭の上に大きなタライを乗せたおばちゃん、町を散歩する牛たち、パパヤーの木、ハイビスカスの花、ヤギ肉を好んで食べること、さとうきび売り、パイナップル、カメラカメラなどなど、遠く離れた沖縄を思い出させることばかりでした。明るく親切な、どこかウチナンチュと似たガーナ人との生活が私の日常でした。



路上でパイナップルを
売る人



理工系高等学校に通う
生徒達

青年海外協力隊活動通信

